

每月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行

# 縣報 第四百卅一號

明治卅八年四月三十日 和歌山縣

○公文

○和歌山縣訓令甲第十九號

郡役所  
警察署  
全分署  
市役所  
町村役場

時局ニ對スル防疫上ノ施設ニ關シテハ目下夫々措置中ニ屬スト雖モ時局ノ進轉ニ伴ヒ滿韓其ノ他海外有病地トノ交通頻繁ヲ加フルニ從ヒ既ニ客冬來痘瘡及流行性腦脊髄膜炎諸方ニ漸發シ「ベスト」病毒ヲ東京其ノ他ニ船賣セラレ今又廣島市ニ於テ「ベスト」患者發生セリ加之時季漸次温暖ヲ加フルニ從ヒ虎列刺等ノ劇性病毒ノ浸襲スルコトナキヲ保シ難ク亦痲腸室扶私ノ如キ既ニ各地ニ發生シ蔓延ノ兆候ヲ呈シ候就テハ此際從來ノ訓導ニ基キ防疫措置ヲ嚴行シ其實効ヲ期スルハ勿論特ニ清潔法ノ施行並ニ爾後其時續ニ注意セシメ又急病死者ニ對スル病症ノ調査及檢病的各戸調査ノ方法ニ依リ患者ノ發見ヲ敏速ニシ其ノ他兵員ノ宿

縣報第四百卅一號 明治三十八年四月三十日 第三種郵便物認可

舎ニ在テハ最モ注意觀察ヲ發給シテ適切ノ措置ヲナシ尙ホ沿海地方ニ於テハ寒氣スル一候ノ船舶ニ對シ嚴重觀察ヲ行ヒ必要ト認ムルモノニハ臨時清潔法ヲ施行セシメ鯨鼠ノ驅除飲料水固ノ消毒ヲ履行セシムル等病毒ノ侵入ヲ防キ防疫上速策ナキナラズヘシ

明治三十八年四月廿八日

和歌山縣知事 伯耆 清 家 敬

○和歌山縣告示第九十九號

左記ノ通行獵免狀遺失ノ旨届出ヨリ

明治三十八年四月二十八日

和歌山縣知事 伯爵 清 樺 家 敷

和歌山縣東牟婁郡田原村大字

佐部壹番地

村 口 傳 七

當五十九年

一乙種三等狩獵免狀

第貳號

明治三十七年十月十五日下付

右明治三十八年四月十四日京牟婁郡田原村大字上田原西畑山ニ於テ遺失ス

○和歌山縣告示第百號

左記ノ者頭書ノ番號ヲ以テ本日和歌山縣產婆名簿ニ登録ス

明治三十八年四月二十八日

和歌山縣知事 伯爵 清 樺 家 敷

和歌山市黨ノ森堂前丁二番地

和歌山縣平民

津 田 イ ナ ノ

明治九年五月生

縣報第四百卅一號

明治三十八年四月三十日

第三種郵便物認可 三

○和歌山縣告示第百一號

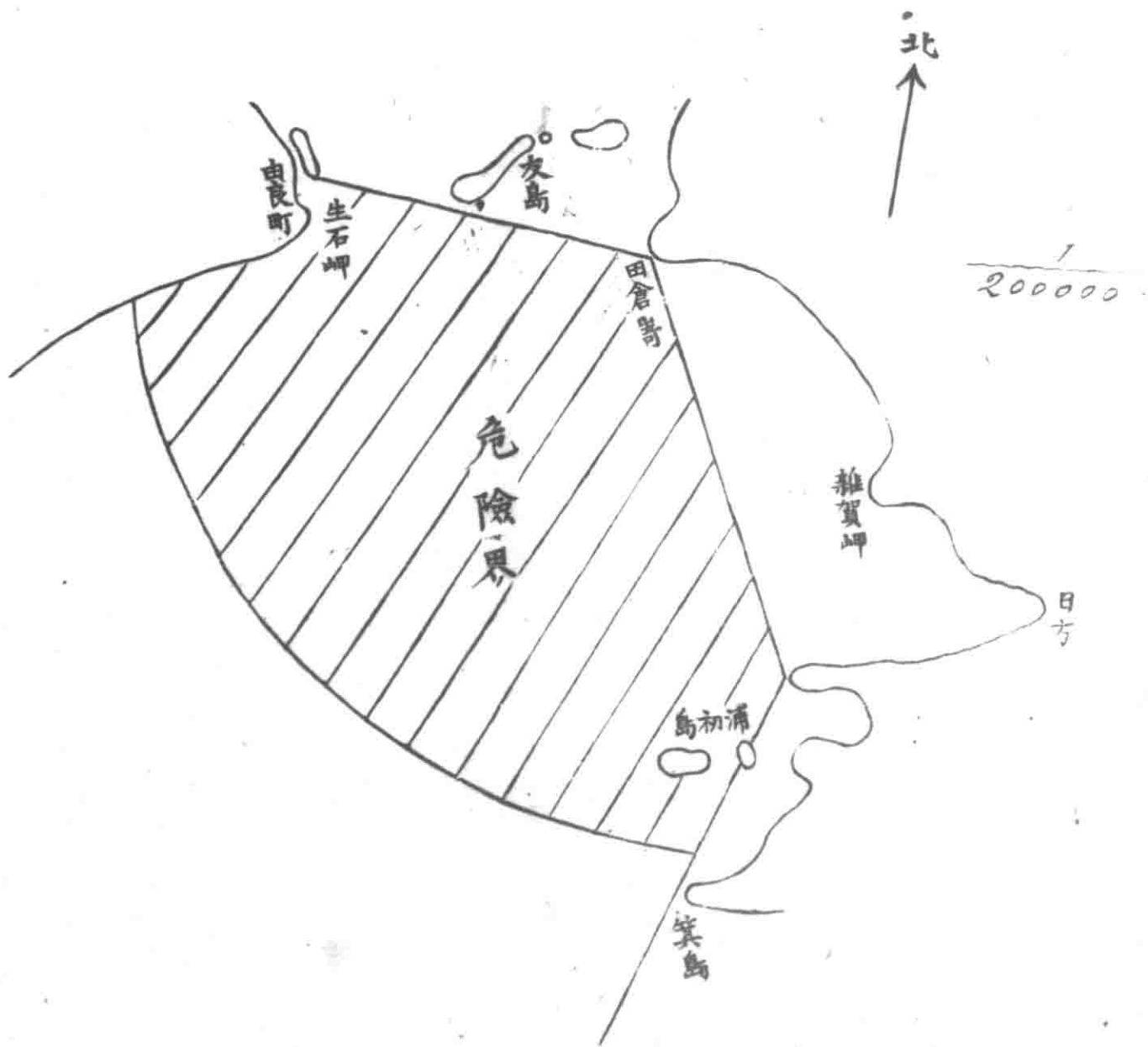
來ル五月三日ヨリ約一週日記談海峽ニ於テ實射擊施行セラルヘキニ付左記畧圖ニ示シテ

ル海面ニ對シ危險ノ虞ナキ様夫々警戒スヘシ

但シ射擊當日ハ發射間發射砲臺ニ赤旗ヲ植立セラル

和歌山縣知事 伯爵 清 樺 家 敷

明治三十八年四月廿九日



○和歌山縣告諭第一號

戰爭ニ際シ若ハ戰後ニ於テ其傳染病ニ對スル注意方ハ韓日告諭セル處就中痘瘡ニ對スル種痘ノ如キ完全ノ豫防法ニシテ其ノ善感後五ケ年以内ハ免疫性ヲ有ス然ルニ客年來韓國仁川港ニ於テ本邦人間ニ痘瘡流行シ今尙ホ終熄セサルノ狀況ニシテ其ノ罹病者ハ概テ近來本邦ヨリ新ニ渡韓セル未種痘者若ハ種痘善感後五ケ年ヲ經過セシ者ニ屬セリ而シテ目下同地方ニ本邦其ノ他各地トノ交通頗ル頻繁ヲ極メ日ニ數百名ノ出入者有之ヲ以テ先方ニ於テ種痘ヲ受ケントスル際ハ手數ト比較約多額ノ種痘料ヲ要シ渡韓者ノ不利益ナレハ今後渡韓セントスル者ハ目的的地ノ仁川ナルト否ヤニ拘ラス未種痘者ハ素ヨリ種痘善感後五ケ年ヲ經過セシ者ハ必ス種痘ヲナシ其証ヲ携帶シ罹病ノ慘害ニ陷ラザル様警戒スベシ

明治三十八年四月廿八日  
和歌山縣知事 伯辭 清 棧 家 啟

正 誤

本年三月三十一日縣報第四百廿二號ノ内告示第六十九號中  
明治三十八年度和歌山縣歲入歳出更正ノ内歳出經常部合計ノ次左ノ二行脱ス  
明治三十八年四月廿八日  
和 歌 山 縣

第一款 土 木 費  
△既定豫算金六万四千四百四十九圓三十九錢七厘  
更正豫算金六万四千六百四十九圓三十九錢七厘

縣報第四百卅一號 明治三十八年四月三十日 第三種郵便物雜可 五

○町村長及助役ノ異動

那賀郡山崎村助役 味 村 定 吉  
海草郡大崎村長 兒 玉 佐 次 右 衛 門  
全 郡 仁 義 村 有 給 村 長 中 野 久 彌 哉  
右四月廿七日認可

○觀 測

明治三十八年四月廿五日ヨリ三日間當地氣象概況

月 日	四月廿五日		四月廿六日		四月二十七日	
	前 年	本 年	前 年	本 年	前 年	本 年
平均氣壓	七六〇耗九	七五九耗三	七五七耗八	七五八耗一	七六二耗九	七五九耗二
平均氣溫	一九度四	一五度三	一九度八	一五度一	一六度八	一五度八
最高氣溫	二二度四	一八度七	二二度三	一七度二	二〇度八	二〇度五
最低氣溫	一六度三	一二度一	一五度〇	一三度五	一四度三	一一度五
最多風向	南	南	南々西	北東	北々西	北

